

C.L. information

Vol.38 2014年7月

特 集

- ◆ よく似た害虫類 –ハチ・アリ・シロアリの違い–
- ◆ 食中毒情報



株式会社コントロール・ラボ

よく似た害虫類 –ハチ・アリ・シロアリの違い–

7月に入りセミの鳴き声が聞こえ始めました。夏場になるといろいろな虫に関する相談が弊社に寄せられます。今回はその中で、よく似ていて紛らわしい害虫類「ハチ・アリ・シロアリ」について、簡単な見分け方とその特徴をご紹介します。

ハチ・アリ・シロアリの関係性

まず、「ハチ・アリ・シロアリ」の関係性を整理しましょう。ハチ類とアリ類はとても近い仲間です。分類学上は、ハチ類の中にアリ類が含まれています。つまり、アリ類はハチ類の中の1グループにしか過ぎません。一方で、シロアリ類は、アリ類とよく似ていますが、近い仲間では無く、ゴキブリ類やカマキリ類に近い生物です。また、ハチ類やアリ類は完全変態（卵、幼虫、蛹、成虫の段階を経て成長する）をするのに対して、シロアリ類は不完全変態（蛹の期間がなく、幼虫と成虫が似た形態をしている）をします。

見分け方

次に、簡単な見分け方について説明します。ハチ類とアリ類の見分け方は、胸部と腹部の間に腹柄節という小さな節があるかで判別できます。腹柄節があるのがアリ類、ないのがハチ類です（図1、図2）。

アリ類とシロアリ類の見分け方は、まず、アリ類では胸部と腹部の間に明確なくびれがあり、シロアリ類ではくびれが無く、寸胴な形をしています。また、前翅が長く後翅が短いのがアリ類、前翅と後翅が同じ長さのものがシロアリ類になります。アリ類の触角は“く”の字に曲がっており、シロアリ類では触角が真っ直ぐになっているのも判別のポイントになります（図2、図3）。また、シロアリの場合、翅は簡単に取れてしまいます。続いて、個別に詳しく生態を見ていきましょう。

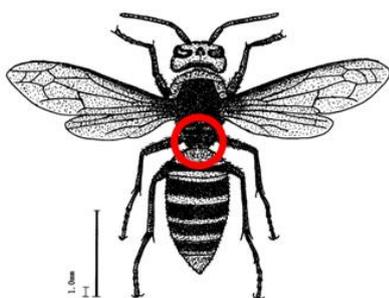


図1 ハチ類

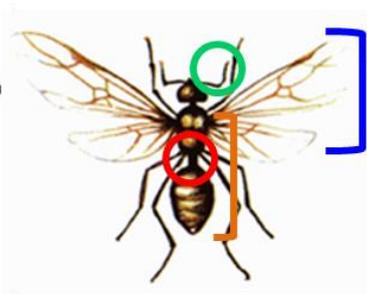


図2 アリ類

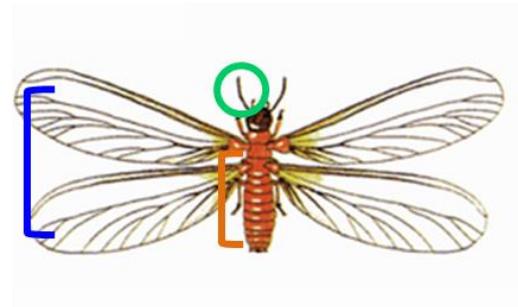


図3 シロアリ類

(図1：公益社団法人日本ペストコントロール協会、図2、3：公益社団法人日本しろあり対策協会)

特徴	ハチ	アリ	シロアリ
腹柄節	無し	有り	無し
胴体	種によって異なる	くびれ有り	くびれ無し
翅の長さ	前翅が長く、後翅が短い	前翅が長く、後翅が短い	翅の長さがほぼ同じ
触角	種によって異なる	くの字に曲がっている	真っ直ぐ

ハチ類

ハチ類は日本に4,000種以上知られている多様性の高い一群です。被害を引き起こす種類は、アシナガバチ類、スズメバチ類が主で、ミツバチ類もよく目につきやすい種類です。アシナガバチ類やスズメバチ類等に一度刺された人が再度刺されることで激しいアレルギー症状（アナフィラキシーショック）を引き起こすことがあります。

アシナガバチ類は最もよく見られるハチ類で、草むらや軒下に円盤状の巣を作ります。スズメバチ類ほど攻撃的ではありませんが、巣に近づくと刺される場合があります。イモムシやケムシを狩り、餌とします。7、8月に個体数が多くなります。

スズメバチ類は大型のハチ類で、巣は球形で低木の枝などに作ることが多く、家屋の屋根裏に作るケースもあります。また、オオスズメバチは土中などに巣を作るため発見が難しい種類です。攻撃的な性質を有しており、毎年死傷者が出ます。8、9月頃に個体数が多くなります。

ミツバチ類は樹洞、屋根裏、床下等に巣を作ります。性質はおとなしく、滅多に刺しません。4、5月の春先、新女王が生まれると、旧女王は新しい巣を作るため、働きバチとともに他に移動することがあります。これを“分封”といいます。多数のハチが群れているので恐怖感を覚えることがありますが、刺激を与えなければ、時間と共に移動していきます。



図4 キアシナガバチ



図5 オオスズメバチ



図6 セイヨウミツバチ

(図4~6 公益社団法人

日本ペストコントロール協会)

アリ類

アリ類は日本に260種以上分布しているとても身近な生き物です。一般住宅や工場などで問題となりやすい種類としては、トビイロケアリ、オオズアリ、ルリアリ、アミメアリ、サクラアリ、イエヒメアリなどが挙げられます。被害としては、主に食品へ群がることによる異物混入や不快感のほか、イエヒメアリやオオハリアリなどの場合、口器や毒針による刺咬被害もあり特に注意が必要です。ルリアリなどでは電気機器の中に侵入し故障させた被害例もあります。アリ類の中には、建築物の木材が腐朽している場合やシロアリ類の被害があった場合は、そこに営巣する種類がいますが、シロアリ類のように木材自体を餌として食べるわけではありません。また、近年、南米原産の外来種、アルゼンチンアリが分布を急速に拡大しており、在来種の駆逐とそれに伴う生態系の攪乱が危惧されており、メディアで騒がれています。



図7 ルリアリ



図8 サクラアリ
(翅アリ)

基本的な対策としては、アリ類の巣や行列に不快害虫用の殺虫剤を散布し駆除する方法がありますが、女王アリを駆除しないと巣が再生することがあるため、ベイト剤（毒餌）によって巣ごと駆除する方法が最も効率的です。このときアリの種類によって、糖質を好むのかタンパク質を好むのかが異なるため、種類を調べてベイト剤を使い分けるのがポイントです。また、翅アリの侵入防止対策として、窓などに忌避剤を使用することも有効です。

シロアリ類

シロアリ類は建物や木材を食い荒らす世界的な大害虫で、日本には 20 種以上生息しています。この中で建物を加害するのは、**ヤマトシロアリ**と**イエシロアリ**の 2 種類が主です。ヤマトシロアリは北海道北部以外の日本全国に分布しており、4～5 月頃に翅アリが一斉に飛翔し、一般的に被害は床下や壁面に集中します。一方、イエシロアリは神奈川県以西の海岸線に沿った温暖な地域に生息しており、翅アリの飛翔は 6～7 月頃に行われます。イエシロアリの被害は床下だけでなく垂直方向（2 階や 3 階）にも広がり、被害進行が早いため、甚大になりやすい傾向があります。対策としては、定期的な予防消毒が大切です。現在の薬剤は以前と異なり、人やペットを含め哺乳類への安全性が非常に高く、薬剤成分が気化しにくいいため匂いもほとんどありません。



図 9 ヤマトシロアリ



図 10 ヤマトシロアリ (翅アリ)

(図 9、10 公益社団法人
日本しろあり対策協会)

飛翔活動時期

最後に、これらの害虫類が飛翔活動をする時期について、図 11 にまとめました。スズメバチ類やアシナガバチ類は、4～11 月頃まで、比較的長い期間飛翔活動します。一方で、アリ類やシロアリ類の飛翔時期は比較的短期間です。アリ類の翅アリのシロアリ類と見間違えるケースがありますが、シロアリ類の飛翔時期(4～7 月)は限定されているため、翅アリが出た時期によってシロアリ類であるかを判別できる場合もあります。

種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スズメバチ類 アシナガバチ類				←→								
クロオオアリ トビイロケアリ キイロシリアゲアリ サクラアリ				←→			←→		←→			
ヤマトシロアリ イエシロアリ				←→		←→						

図 11 飛翔活動する時期

食中毒情報

梅雨に入り、細菌性の食中毒が急増してきました。今月は、発生件数ではカンピロバクターが最も多く、発生患者数ではウエルシュ菌が最も多い状況でした。

カンピロバクターは、少量の菌でも発症するため頻発しやすく、ウエルシュ菌は、1 つの容器で大量に調理する煮物やスープで発生しやすいため、1 度に多くの患者数が発生しやすい特徴があります。梅雨から秋にかけては、微生物が増殖しやすい環境が整っているため、食材と調理品の交差汚染防止、保管管理を徹底して、食中毒菌を可能な限り少なくコントロールした食品を提供して下さい。

(6/16～7/14 新聞発表分) 全国食中毒発生状況

原因物質	事例	感染者数
カンピロバクター	7	96
サルモネラ	4	29
ウエルシュ菌	3	1041
黄色ブドウ球菌	2	112
不明・その他	12	216

株式会社コントロールラボ

本 社 〒651-1211 神戸市北区小倉台 7-1-7
 阪神事業部 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町 2-4-15
 福岡営業所 〒816-0921 福岡県大野城市仲畑 1-6-15-A 棟 3
 フリーダイヤル
0120-540-643
 URL <http://controllabo.co.jp>

TEL: 078-582-3575 FAX: 078-582-3576
 TEL: 078-858-6801 FAX: 078-858-6802
 TEL: 092-575-0630 FAX: 092-586-6321

